

Display Business Forum 2026 / K-Display 2026訪問記

今年も KDIA（韓国ディスプレイ産業協会）のお招きにより、韓国ソウル COEX で開催された、Display Business Forum および K-Display Exhibition に参加した。

【日程】

Display Business Forum 7/21(火)～22(水)

K-Display Exhibition 7/22(水)～24(金)

昨年よりも半月ほど早い開催で季節的には韓国で言う梅雨＝チャンマに当たるとのことで、滞在中は毎日曇り時々雨か土砂降りといった天候であった。東京と比較して気温は少し低いものの湿度は高かった（滞在中の気温：23℃/29℃、湿度80～95%）。

Display Business Forum は K-Display Exhibition よりも一日早く7/21から二日間の日程で行われる。

【Session 1】

今年のテーマは「Rethink a Display」

オープニング・セレモニーでは中国 CODA（中国光学光電子工業協会液晶分会）の梁新清（リャン・シンチン）常務副理事長に続き、SEAJ の小林事務局長が祝辞を述べた。

昨年は中国でのディスプレイの大会議「DIC 2025 (Display Innovation China)」と全く日程が被っていたが、今年はうまくずれているのでビデオメッセージはなく、皆さんリアルにスピーチされていました。



祝辞を述べる小林事務局長

オープニング・セレモニーに続く Key Note には以下の二人が登壇した。

・ Young-Seok Choi 氏 / 韓国 LG Display CTO

・ Bai Shi 氏 / 中国最大のディスプレイメーカー・BOE Vice Chief Strategy Officer

ディスプレイが単なる視聴ツールではなく TV、車載、ノート PC、タブレット、スマホ、ウェアラブル、AI・IoT・エネルギー・医療・モビリティを支える基盤技術へ進化する、そのためには中韓含む LCD 業界の連携が重要と述べた。

【Session 2】

5社が自社の技術を交えながらビジネストrendとしての AR/VR/XR を語った。多くの社が眼鏡にカメラやディスプレイを組み込んだ、AR/VR/XR スマートグラスを紹介していた。超高輝度、低消費電力、小型化の Micro LED を使用した AR グラスが最大市場になると語っていた。

しかしながらその外観は、弦（テンプル）の部分にカメラ・充電電池を組み込むため、弦が太くファッション性は今一つと言ったところに見える。私見であるが、作業用ならありなのかもしれないが、道行く人がみなこの眼鏡をかけていたら、やや違和感のある光景になるのではないだろうか。



スマートグラス

【Session 3】

7社が講演したが、FPD の技術競争の新たな一面を垣間見ることができた。

いままでのディスプレイ競争は、【第1世代・LCD】⇒【第2世代・OLED】⇒【第3世代・Mini LED】⇒【第4世代・

Micro LED】⇒【第5世代・Micro LED + AI + Photonics (←今、ここ)】。第5世代は単なるディスプレイ競争ではなくなっている。

①「画面」から「インテリジェントサーフェス」へ。

映像は「モニター」に映し出すものではなくなり。窓、車のフロントガラス、鏡、建築ガラスなどすべてが表示器具になる。「モニター」から、「表示機能を持つ表面」へ。

② AI データセンター向け光通信光源としての Micro LED。
これが、最も新しいトレンドで今回の Forum のハイライトの一つと言える。

Micro LED の利点である高速変調、高密度並列伝送、低消費電力、CMOS 統合容易な特性を光源として利用し、AI サーバー向け、CPO、AOC、Optical IO への展開を狙う発表が多かった。もはやディスプレイフォーラムというよりはオプトエレクトロニクス技術の分野に踏み込んでいる。

Micro LED は優れた特性を持つものの、大画面は製造技術の難しさや、製造コストの高さなどでディスプレイビジネスとして成立するのか、と疑問を抱く指摘は以前からなされていた。一方 AI サーバー向けのビジネスとなれば、巨大な市場が出現することとなり、製造コスト低減、ひいてはディスプレイへの適用の道が拓けてくるかもしれない。

【K-Display Exhibition】

9/22開幕の K-Display Exhibition は昨年同様 COEX Hall C を使用して行われ、SEAJ 小林事務局長が開会式のテープカットを行った。

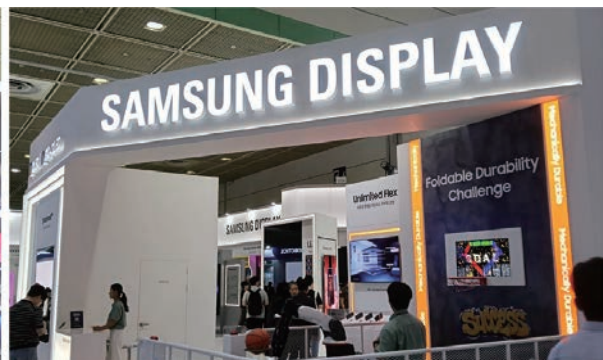


テープカットをする小林事務局長（後列左から4人目）

ブースレイアウトは Samsung Display と LG Display の位置が入れ替わったぐらいで昨年と大差なかった。展示面積は Semicon Korea 2026 の約1/4ほど。

主催者発表では出展社は昨年よりもやや減少している。

ブースや展示機器の説明は、ほとんどがハンゲル表記で海外を相手にビジネスをしている感じは少ない。



Samsung Display、LG Display のブース2大ブースがとても立派なつくり



Samsung、LG 以外のブースはこのような感じ。混雑はなく歩きやすい

主催者発表	2025年	2026年
出展社	168	142
ブース数	582	446
来場者	2万人	2万人（未確定）

【KDIA から感謝状を受領】

従来友好関係を保っている KDIA から日頃の友好的活動について SEAJ を代表して小林事務局長へ感謝状が贈呈された。



授与された感謝状

感謝狀

Akihide Kobayashi 様 / SEAJ（一般社団法人 日本半導体製造装置協会）専務理事・事務局長

世界ディスプレイ産業の発展に対するご尽力と、韓国ディスプレイ産業協会（KDIA）との協力関係の強化に対するご貢献を称えます。 これにより、国際的な業界交流の促進に多大な貢献をされたことに深く敬意を表します。 また、これまでの貴重なご支援とご協力に対し、心より感謝申し上げます。

韓国ディスプレイ産業協会 (KDIA)
副会長 Seung-Woo Lee (イ・スンウ)
2026年7月22日

末筆ながら K-Display、Display Business Forum で行われた様々な重要イベントで SEAJ に対して、細やかな配慮をしてくださった KDIA の方々の温かいお心遣いにこの場を借りて謝意を表します。

(SEAI 事務局国際部 おおた 太田 つねかず 恒和)